

2:15 エリコの預言者の仲間たちは、遠くから彼を見て、「エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている」と言って、彼を迎えに行き、地にひれ伏して礼をした。

2:16 彼らはエリシャに言った。「しもべたちのところに五十人の力ある者がいます。どうか彼らにあなたのご主人を捜しに行かせてください。【主】の霊がエリヤを運んで、どこかの山か谷に投げたかもしれません。」するとエリシャは、「行かせてはいけません」と言った。

2:17 しかし、彼らがしつこく彼に願ったので、ついにエリシャは、「行かせなさい」と言った。そこで、彼らは五十人を送り出した。彼らは三日間捜したが、エリヤを見つけることができなかった。

2:18 彼らは、エリコにとどまっていたエリシャのところへ帰って来た。エリシャは彼らに言った。「行かないようにと、あなたがたに言ったではありませんか。」

2:19 さて、この町の人々はエリシャに言った。「あなた様もご覧のとおり、この町は住むのには良いのですが、水が悪く、この土地は流産を引き起こします。」

2:20 するとエリシャは言った。「新しい皿に塩を盛って、私のところに持って来なさい。」人々は彼のところにそれを持って来た。

2:21 エリシャは水の源のところに行って、塩をそこに投げ込んで言った。「【主】はこう言われる。『わたしはこの水を癒やした。ここからは、もう、死も流産も起こらない。』」

2:22 こうして水は良くなり、今日に至ってい



る。エリシャが言ったことばのとおりである。

2:23 エリシャはそこからベテルへ上って行った。彼が道を上って行くと、その町から小さい子どもたちが出て来て彼をからかい、「上って来い、はげ頭。上って来い、はげ頭」と言ったので、

2:24 彼は向き直って彼らをにらみつけ、【主】の名によって彼らをのろった。すると、森の中から二頭の雌熊が出て来て、子どもたちのうち四十二人をかき裂いた。

2:25 こうして彼は、そこからカルメル山に行き、そこからさらに、サマリアに帰った。

エリシャの霊的権威が明かにされます。水をいやすことによって、人々を生かす権威があることがわかります。これは地の塩としてのクリスチャンの生き様がこの世にいのちを与えるという、新約の真理を思い起こさせます。私たちが神のことばを受け取るものですから、このように人々を生かす者となりましょう。

「小さい子どもたち」とありますが、この原語のナルは青年や未成熟のという意味もあります。「はげ頭」とは人をばかにする慣用句で、エリシャの権威を貶める行為でした。エリシャの呪いがどんな内容であったかは分かりませんが、具体的に仕返しをしたのではなく、主の名によってその報いを求めたのでしょう。彼らの行為を認めてしまえば、主の働きに支障が出るからです。

エリシャがそこまで求めていたのではないでしょうが、結局彼らは殺されてしまいました。これはエリシャの霊的権威を明かにする出来事となったのです。

主のご計画と主の権威、また主の秩序がどのようにして表れているのかを、理解し、謙遜に認め、希望を与えられつつ、従いながら建て上げていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

